



農工通信



第76号

<http://www.tuat.ac.jp/~dousou/>


10月に入り水稻の収穫が進む農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センターFM本町の水田(府中市本町3-7-7)。大学院農学教育部, 大学院生物システム応用科学教育部の14の研究室が実験に利用し, 農学部生物生産学科, 応用生物科学科, 地域生態システム学科の実習を行っています。地域貢献として, 府中市内の小学校の稲作体験授業を行っています。

もくじ

同窓生だより

- 須田 一郎氏が世界の園芸界の
“殿堂入り”の快挙…………… 2

学園だより

- スーパー産学官連携本部
整備事業について…………… 3

研究紹介

- 農工大における農作物品種育成
1. 花モモ‘幸ホワイト’の育成と
菊咲き性などの遺伝解析…………… 4
2. 耐倒伏性極強の水稲長稈品種の特性と
新品種リーフスターの育成…………… 5

学園だより

- 本学におけるF-SAE活動について…………… 6
部会・支部・クラス会だより…………… 7
掲示板…………… 9
次年度以降の農工通信の発行について…………… 9
東京農工大学準硬式野球部
創立50周年記念行事OB会開催…………… 9
小金井キャンパス120年史の頒布…………… 9
平成17年版同窓会会員名簿発行…………… 10
慶弔…………… 10
事務局だより…………… 10
編集後記…………… 10

同窓生だより

須田峻一郎氏(農 S41)が世界の園芸界の“殿堂入り”の快挙

このたび、農学部農学科(S41)卒業生で、株式会社サカタのタネ代表取締役専務の須田 一郎氏が2005年度オール・アメリカ・セレクションズ(略称 AAS)「メダリオン・オブ・オナー」を受賞されました。

AASは1932年にアメリカで発足した、花や野菜の優良品種の選定や普及・育成者の権利保護を目的としている非営利機関で、アメリカ・カナダの一般園芸愛好家に対し新しい花壇材料を紹介・普及する事を目的に活動しており、世界の主要な種苗会社が競って新しい育成品種を出品する園芸業界で最も権威のある業界団体です。今回、氏が受賞した AAS「メダリオン・オブ・オナー」は世界の園芸業界において大変名誉な賞と位置づけられており、野球界に例えれば「殿堂入り」に匹敵する非常に価値のあるものです。なお、同賞の授賞式は去る7月29日、米国イリノイ州シカゴで開催された AAS の「サマーミーティング」にて執り行われました。

AAS が授与する賞としては、優秀育成品種と認められた花と野菜の新品種に贈られる「AAS 受賞メダル」が馴染み深く、サカタのタネにも数多くの受賞歴を持ちますが、新品種の他に園芸業界ならびに AAS に多大な貢献をした人に対して授与する賞が、今回、須田氏が受賞した「メダリオン・オブ・オナー」です。

本賞について AAS の規定では「園芸業界(特に花壇園芸)の発展の為に際立った貢献をした人に与える」と記載されており、1936年の第一回受賞から始まり、ジョージ・パーク氏などの園芸業界の名だたる方々が受賞されています。そして、サカタのタネでは、1965年に母校の大先輩でもあり、創業者でもある坂田武雄氏が受賞しております。

今回、日本人として3人目の受賞者となった須田氏は、1966年農学部と空手部を卒業、坂田種苗株式会社に入社し、茅ヶ崎試験場で花の品種育成を行うブリーダーとしてスタート。以来品種の育種研究開発に積極的に取り組み、世界で始めて花色が覆輪になるペチュニアの F₁ 品種「ブルーピコティ」を作出しました。1979年には海外営業担当として外国部へ移籍。駒場寮仕込で、負けん気の強い、努力家の氏は全く話せなかった英語も猛勉強、短期間で英語でわたりあうまでががんばりま



した。花の研究開発の責任者として活躍するとともに、ブリーダーとしての経験と営業で築き上げたネットワークとを生かし、グローバルに受け入れられる品種の開発を数多くプロデュースしてきました。その代表的な事例としては、米国メリーランド大学から買い上げた野生のジニア(百日草)素材を、育種開発を通じ消費者の嗜好にあった園芸商品として完成させ、1999年 AAS 金賞「ジニアプロフュージョン」があります。また、世界中で人気上昇中のトルコギキョウやゴテチャなどの F₁ 品種の切花を、米国市場を始め多くの国に紹介、切花産業の地球規模的な発展に貢献しました。さらに多年草、球根の種子系1年草化にも積極的に挑戦し、数多くの斬新な品種を世に送り出して来ました。

今回の須田氏の「AASメダリオン・オブ・オナー」受賞は、上記のような長年にわたる数多くの園芸業界における功績が認められたことによるものです。

なお、オール・アメリカ・セレクションズ(AAS)の詳細は

<http://www.all-americanselections.org/>

でご参照ください。

なお、去る9月16日には AAS の事務局長ノナ・コイブラ女史が来日し、同窓会の畑中会長、恩師の松本正雄先生、箱田先生、業界及びサカタのタネ関係者などで、創業者坂田武雄の愛した横浜の山下公園のニューグランドホテルで受賞祝賀会を持ち須田氏の栄誉を称えました。

(文 飯塚 勲 農 S42)

学園だより

スーパー産学官連携本部整備事業について

理事・副学長 産官学連携・知的財産センター長 笹尾 彰

文部科学省では、平成17年度、新たに大学知的財産本部を核として、大学内のリソースを結集し、組織的に産学官連携を推進するための体制として「スーパー産学官連携本部」の整備大学を選定することにしました。この事業は海外主要大学と伍した産学官連携体制の構築や組織的な共同研究の推進、積極的な民間資金の獲得などを図ることを通じて、我が国経済・社会の発展に一層の貢献ができる体制を構築することを目的として、全国の大学を対象に募集されたものです。

本学も、この事業実施に向けて応募し、これまでの実績が高く評価された結果、採択された6大学(東京大学、京都大学、大阪大学、東京工業大学、奈良先端技術大学、東京農工大学)の一角に入り、これを記念して、10月6日(木)15時から記念シンポジウムを開きました。

シンポジウムには、本学の産官学連携活動に興味を持つ企業の方、他大学の産学連携推進部・知的財産部の方などの他、本学教職員、マスコミ関係者など座席数224名のところ、約250名の参加があり、急遽スタッフが折りたたみミス等を会場に運び込むという嬉しいハプニングもありました。本学が目指す「スーパー産学官連携本部」の概要とその特徴を紹介し、同窓の皆さんのご協力をお願いする次第です。

1. 整備の目標

本事業による産官学連携整備本部の整備の目標は、学長のリーダーシップのもとで、従来からの共同研究を更に推進することと大学における基礎研究の成果を土台として「教育」と「研究」、そして、「新技術・新産業創出」を三本柱とする本学のミッションを最大限に遂行することです。そのために、学長を本部長とした「産官学連携戦略本部(以下、戦略本部)」を設置しました。

2. 体制整備

戦略本部は、学長を本部長とし、研究担当副学長、部局長等からなる意思決定機関「産官学連携戦略委員会」を設置し、教育と研究、新技術・産業の創出に係る産官学連携の戦略策定を行います。また、戦略本部のもとで産官学連携・知的財産センター(以下、センター)と教員の大部分が席を置く研究部を連携して、基礎研究から実用化研究までの研究コーディネート、産業界のニーズと本学の研究シーズとのマッチング、研究資金の獲得、共同研究、インキュベーションなどの活動を推進するとともに、知的財産部との連携の下に、知的財産の獲得と活用を図ろうとするものです。

3. 体制の特色

今回採択されたスーパー予算の執行にあたり、以下のようなことを重点的に行いました。

1) 研究マネジメント等の体制

従来、特許や共同研究に適用してきた案件単位の管理を、基礎研究の発足段階から徹底します。つまり、教員が行っている基礎研究からコーディネータをあて、応用研究の発掘、共同研究への進展、研究成果の権利化、さらに特許から派生する共同研究・技術移転などを継続的にフォローします。そのため、コーディネータは、拠点や部局に配置し、教員との互恵関係を一層強化します。

2) 契約機能や法務機能の強化策

従来の体制に加え、今後は、コーディネータとリエゾン専門人材が研修と実務経験を通して見識を深め、弁護士・弁理士を核にして組織的に強固な契約機能と法務機能を実現していきます。そのため事務組織の充実も図ります。

3) 共同研究に係る秘密保持体制の具体的方策

本学が独自に創出した発明など知的財産、本学または研究者が入手した企業などの営業秘密の保持については、リエゾン専門人材、コーディネータ、知的財産部スタッフが教員と連携し、研究マネジメントを行っていく中で、教職員の不正行為、学生の不正行為、秘密の漏洩が起こらないように指導していきます。

4. 戦略的な運営方法

産官学連携の戦略的な運営については、大学と産業界との間で知的創造サイクルを回すことにより実現される新技術・産業創出を加速し、国民生活の質の向上に還元するという国立大学のミッションをより高い次元で達成すべきであると考えます。そのために、基礎研究の段階から研究コーディネートを行うコーディネータの配置を行い、また、産業界のニーズと本学の研究シーズとのマッチングを行うリエゾン専門人材などを配置し、金融機関などとの連携により、新産業・技術の創出を図ります。

具体的には、研究プロジェクトを公募し、6課題について10月1日からコーディネータの採用配置を決定しました。プロジェクトの代表者の研究分野は、応用分子科学、電子情報学、農学全般、食料・環境、生命機能科学・バイオ、機械工学の6つで、幅広く人材を選考することができました。産のみならず、地域連携などを含めて官(公)との共同研究も大いに期待するところです。

以上が今回新しく設立した「産官学連携戦略本

部』の概略です。

これまでの本学における共同研究開発センターと改組後の産官学連携・知的財産センターの活動実績が高く評価され、「スーパー産官学連携本部」の整備大学の一角を担うことになったことは大変名

誉なことであり、また、日本を代表した産官学連携の担い手としての責任を感じるものです。

今回「スーパー産官学連携整備事業」に採択された快挙を祝うと共に、再度、皆さんのより一層のご協力をお願いする次第です。

研究紹介 農工大における農作物品種育成

1. 花モモ‘幸ホワイト’の育成と菊咲き性などの遺伝解析

農学部生物生産学科 荻原 勲 (農学院S55)

花モモとは、観賞用モモの総称で、栽培されている生食用や缶詰用のモモと同じ *Prunus persica* に属します。花モモは万葉の頃から親しまれ、江戸時代に品種改良が進み、開花期(早生, 晩生)、花の咲き方(一重咲き, 八重咲き, 菊咲き)、花色(紅, 桃, 白, 咲き分け)、樹型(わい性, ほうき性, 枝垂れ性, 高木性)などの多様な形態を持つ品種が育成されてきました。その後、明治初期に「上海水蜜桃」など果実が大きい生食用品種が中国や欧米から導入され、生食用モモの近代育種が始まると花モモへの関心は次第にすたれていきました。しかし、近年「花」の多様なニーズの増加に伴い、観賞用の花モモは枝物、庭木、鉢物、街路樹などの利用が期待されています。

そこで、園芸学教室の志村勲名誉教授らは高木性で菊咲き(花弁が細く八重咲き)の「菊桃」とわい性(枝の節間がつまった低木)で八重咲きの「寿星桃」とを1985年に交配しました。その後 F_1 個体の株元から自然に発生した実生から、1999年に従来存在しなかった白花の菊咲きで、わい性の個体を偶発的に発見しました。この個体は庭木として観賞価値が高いと思われたことから、園芸学会でその育成経過と特徴を発表するとともに、「幸ホワイト」と命名し、2005年3月に品種登録(第12852号)が完了しました(図1)。

命名にあたっては花色が白色であったこと、新品種の誕生が府中市の幸町であったこと、そして、この花をみて幸せな気分になれることを期待して「幸ホワイト」としました。



図1 白花のわい性菊咲きの花モモ新品種‘幸ホワイト’

このように、17年間という長い年月を経て、世界で初めてわい性で菊咲きの個体が獲得できたのですが、この育成の過程の中で、わい性・菊咲き個体の出現は極めて少ないので、わい性遺伝子と花弁の形を決定する遺伝子は近い位置にあるのではないかと、また、菊咲き性(花弁の形)は多様であるので、菊咲き性の遺伝子は複雑であり量的解析が必要ではないかと、さらに、葉の先端部が尖る個体の花弁の幅長は小さく、菊咲き性を示すので、菊咲き性(花弁の形)と葉の形を決定する遺伝子は連鎖関係にあるのではないかと推察されました。

そこで、これらのことを確かめるため、再度 F_1 を自殖し、 F_2 の作成を試み、「菊桃」と「寿星桃」における SSR マーカーによる連鎖解析および菊咲き性などの QTL 解析(量的形質の遺伝解析)を行いました。遺伝解析を行う上で、すでに SSR マーカーを開発していた独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構・果樹研究所遺伝育種部と共同研究(科学研究費、学長裁量経費による研究)を行うこととしました。連鎖解析の結果、*Prunus* 属由来の SSR マーカー 164種類を供試し、モモゲノムの約58%をカバーしている8連鎖群からなる全長290.5cMの連鎖地図が作成され、花色、新梢色、わい性の遺伝子座と完全連鎖する SSR マーカーが得られました。次に、菊咲き性の QTL 解析を行った結果、第6連鎖群上の2つの領域で有意な QTL が検出され、これらが主に菊咲き性を支配していることが明らかとなりました。また、菊咲き性の2つの QTL と矮性の遺伝子座との距離は3.3cMと近く、両者の遺伝子は強く連鎖していることが明らかとなりました。一方、菊咲き性は幼葉、果実、核の形態と関連性がみられ、それらの QTL は菊咲き性の QTL の領域とほぼ同じ領域に検出されました。従って、菊咲き性や葉、果実、核の形態に関するそれぞれの遺伝子が強い連鎖関係にある、もしくは、ある遺伝子が多面的に発現しこれらの形態を決定していることが示唆され、これらのことを園芸学会などで報告しました。これらの研究は、園芸作物ではほとんど解析されていない花の咲き方などの遺伝子レベルでの研究に寄与するだけな

く、*Prunus*属の国際標準地図の充実に貢献できるものと確信しています。

現在、これらの研究材料は農学部の実験圃場に栽植されています。春には300本あまりの多様な

モモの花が咲くので、近隣の住民からは喜ばれています。今後も私の研究室では桃源郷の世界を提供しつつ、一方では世界にあたりし知見を発信していきたいと考えています。

農工大における農作物品種育成

2. 耐倒伏性極強の水稲長稈品種の特性と新品種リーフスターの育成

農学部生物生産学科 大川 泰一郎 (農学S62)

秋の台風シーズンになりますと、水田の稲が風雨により植物体がたわんだり、稈基部の挫折により倒伏し、収量および品質の低下を招きます。倒伏を防ぐため、短稈品種が多く育成されていますが、栽培面積の多い良食味品種コシヒカリは長稈のため倒伏しやすい問題があります。

今後水稲の多用途利用のため、多収をあげる食用品種の開発、わらも利用する飼料用品種、バイオマスエネルギー用の品種を開発していくためには、バイオマス生産量が高いことが重要となります。そのためには植物体の大きい長稈の性質も重要となります。長稈の倒れやすいという欠点を克服できれば、長稈はバイオマス生産にとっては有利な性質であります。

倒伏しにくい品種の備えるべき性質を明らかにするため、国内外の多数の品種を用いて倒伏に係る物理的性質の違いをみますと、コシヒカリをはじめとするわが国の品種は稈が細いので曲げ、折れに対して弱いのですが、国外の品種の中には稈が著しく太い品種、稈が細くても曲げ、折れに強い材質をもつ品種などがあることがわかりました。強稈性長稈品種を育成するための基礎研究材料を養成するために、作物学研究室の石原邦名誉教授、平澤正教授とともに、平成3年に耐倒伏性極強の多収系統「中国117号」を母「コシヒカリ」を父とする交配を行いました。2世代目に、稈が著しく太くしかも曲げ、折れに強い材質をもち、親の中国117号を大きく上回る強稈性を備えた3個体を選抜することができました。この性質はつぎの3世代目にも遺伝し、遺伝率の高い性質でありましたので、遺伝的な固定を進めるため、平成7年に農林水産省中国農業試験場稲育種研究室との共同育成を開始しました。その後、平成9年から同省の農業研究センター稲育種研究室で選抜を行い、バイオマス生産量が大いことから、平成14年から農業・生物系特定産業技術研究機構(農研機構)作物研究所多用途稲育種研究室において「関東飼215号」の系統名で飼料用イネとして収量等評価試験が行われてきました。

平成17年9月に農研機構と東京農工大学との官学共同出願を行い、11月に農林水産省において

「リーフスター」と命名され、水稲農林413号に登録されました。

この品種が飼料用として育成された背景には、水田での自給粗飼料の生産向上によるわが国の低い飼料自給率の向上があります。サイレージにする稲発酵粗飼料では、子実と茎葉部を含めたバイオマス生産量の増加が重要で、とくに消化性のよい茎葉部の割合が高いことが望まれています。リーフスターは、長稈極強稈性でありバイオマス収量が高く、とくに茎葉部収量が高い特徴を備えています。適地は関東以西の温暖地であり、関東では埼玉県稲麦二毛作地帯で有望視されています。

リーフスターは稈基部が太く、かつ曲げ、折れに強い材質を備え、コシヒカリに比べると約3倍の強度を備えています。飼料用としてだけでなく、食用の水稲品種改良の母本として、またこれから開発されることが予想されるバイオマスエネルギー用の高バイオマス水稲品種の品種改良にも応用できます。今年よりリーフスターの強稈性をもたらす生理的機構の解析、イネゲノム情報に基づくDNAマーカーを用いた強稈性に関わる量的形質の遺伝子座(QTL)解析を進めており、台風でも倒れない高バイオマス・多収性品種育成のための基礎的研究を進めていきたいと考えています。

B581	中国117号	
苗粟 B40号		リーフスター
農林22号		
農林1号	コシヒカリ	

図1 リーフスターの育成系譜



図2 左からコシヒカリ(♀)、リーフスター、中国117号(♀)

学園だより

本学におけるF-SAE活動について

TUAT Formula チームリーダー

機械システム工学科 3年 木 森 将 仁

本学の機械システム工学科の学生が中心となって、2003年よりFormula-SAE車両の設計・製作をはじめました。今年9月にその車両が大会出場を果たし「ものづくりサークル」として軌道に乗ることができました。本活動を紹介します。

Formula-SAEとは、学生のみで小規模レーシングカーマニュファクチャーを仮想起業し、レーシングカーの企画から設計、製作、評価試験まで学生の手によって行い、静的審査と動的審査の2イベントで評価される競技会の事です。前者は、車両の設計コンセプト・市場価値・製作コストを精密に算定するエンジニアリング能力を競い、後者は、実際に走行し、レーシングマシンとしての車両性能を競います。

F-SAE活動は、将来の自動車産業界を担う技術者育成の手段として、米国では20年以上行われています。2003年より、日本においても同規格の競技会「全日本学生フォーミュラ大会(J-FSAE)」(自動車技術会主催)が行われています。



2005年度大会の様子(左：静的審査、右：動的審査)

本学のF-SAEチーム「TUAT Formula」は、資金面や製作環境が不十分である事や、設計ノウハウが無い事から、今回の初出場に至るまでは、困難を極めました。しかし、活動メンバーの絶え間ない努力により、初出場まで辿り着きました。大会には「動的審査 全種目完走」を目標とし、「ドライビング時間の最大化」をコンセプトとした車両で望みました。車両コンセプトは、販売標的をサンデーレーサー(趣味でモータースポーツを楽しむ人)とした結果、彼等にとっての最大の問題点である「人件費、運送費、車両の整備」を解決すれば車両のドライビング時間を最大限に取る事が出来るとの考えから成るものです。私達はコンセプトに則った車両製作を行う事により、出来る限りシンプルな車両構造としたので、専門知識や道具を必要とせず、整備を行うメカニック等への人件費の削減及び、整備時間の削減を実現しました。



2005年度大会出場車両

以上の結果、今大会では初出場で参加41校中29位という悔いの残る成績となりました。これは、動的審査において得点配分が高い競技である耐久走行で、部品脱落によりリタイアしてしまった為です。しかし、来年度大会での上位入賞に向けてやるべき事が明確となった事、一部の動的審査のタイムが良かった事から、来年度への可能性を非常に感じる事が出来た大会でした。

私達は、来年度大会へ向けて、活動コンセプトを『渉外活動、学外交流を通じた社会とのツナガリ。一つのモノを作り上げる上での様々なパート、人とのツナガリ。部品を設計、製造していくのに必要な学問とのツナガリ。様々なツナガリの中に、モノ造りの本質がある』という考えから「ツナガリ」をコンセプト及びキーワードとした活動を展開していきます。

最後に、本学での発足当初から「ものづくり」の下地を作るために機械システム工学科の先生方や機械工場の方ならびに企業スポンサーに多大な協力を頂きました。この場を借りて、謝意を申し上げます。我々自身、コンセプトに沿った車両製作・運営を猛勉強しながら活動に励む所存です。

当活動は現在も資金面及び物資面においてスポンサーを募集しております。是非、私達の「ものづくり」活動をご理解頂き、ご支援頂ければ望外の喜びです。noukou_fsae@hotmail.comまでご連絡頂ければ幸いです。

また当活動の詳細は、ホームページ：

<http://www.tuat.ac.jp/fsae/>

にて紹介しておりますので、是非ご覧下さい。

部 会 ・ 支 部 ・ ク ラ ス 会 だ よ り

支部・部会

項 目	神奈川	静岡	宮崎	応用分子化学部会	山口	岡山	三重	大分
日 時	平成16年 7月10日	平成17年 2月20日	6月11日	7月9日	7月10日	7月24日	9月11日	10月8日
開催場所	もみじ坂会館	クーポール会館	エアラインホテル 「龍王」	工学部新1号館 講義室	敦煌徳山店	ピュアリティ まきび	「新玉亭」	割烹さとう
支部・クラス	支部総会	支部総会	支部総会	応用化学会総会	支部総会	支部総会	支部総会	支部総会
理事派遣	岡山事業 副部長	渡邊(敏)総務 副部長	なし	なし	堀経理部長	松岡理事長	岡山事業 副部長	なし
参加者数	27名	61名	18名	80名	11名	21名	11名	21名
総会議事	15年決算報告 16年予算案承認	16年事業報告 17年事業計画	総会報告 事業報告 計画	活動・会計報 告役員再選	総会報告 名簿の取扱	16年事業・ 会計報告		事業・会計報告
講演、討論等	「法人化による 組織の状況」 「資源のリサイ クル及び資料 保存の科学と 技術」	和田宏二 (機械 S58) 「エアコンの 技術動向」 懇親会	「支部規約制 定30周年」誌 作成の説明 懇親会	COE、研究紹 介新1号館、 改修の1号館 の見学 懇親会	「超音波を利用 した切削加工 時の計測や樹 脂の成型加工 時の計測につ いて」	「母校の近況 について」 懇親会	「大学の近況 について」 懇親会	近況報告 懇親会

▶ 神奈川県支部



◀ 静岡県支部



▶ 宮崎県支部



◀ 応用分子化学部会



▶ 山口県支部



◀ 岡山県支部



▶ 三重県支部



◀ 大分県支部



クラス会

項目	養蚕製糸同期会	織工38会	S26・28 林学科卒	かいこ会	農学部S39卒	電気工学科 S41卒	ポプラ会	埼玉県内 林学科
日時	4月7日	4月8日	5月11~12 日	5月17~18日	5月21日	5月29日	6月11日	6月18日
開催場所	農工大学 繊維博物館	時之栖 (御殿場)	長野 松代温泉	草津 ホテル桜井	50周年 記念ホール	港区 ジャンクレー	50周年 記念ホール	川越 甘太郎
支部・クラス	S22 養蚕製糸卒	S38 繊維工学科卒	S26・28合同 林学科卒	S19年9月 養蚕裁桑・ 製糸卒合同	S39農学・農 業生産工学・ 林学・獣医科・ 農芸化学卒	S41 電気工学科卒	S30 獣医学科	林学科等埼玉 県内に在住・ 通勤している 卒業生
参加者数	10名	14名	15名	11名	47名	26名(含恩師)	18名	18名
実施事項	情報交換 親睦	大学の近況 情報交換 親睦	観光 松代城 川中島古戦場 親睦	観光 小栗上 野介の墓、浅 間高原、火山 博物館 親睦	大学訪問 情報交換 親睦	情報交換 親睦	卒業50周年記 念大学訪問 情報交換 親睦	近況紹介 親睦

▶ 養蚕製糸同期会



◀ 織工38会



▶ S26・28 林学科卒



◀ かいこ会



▶ 農学部S39卒



◀ 電気工学科S41卒



▶ ポプラ会



◀ 埼玉県内林学科



掲 示 板

次年度以降の農工通信の発行について

今年の総会で、農工通信の発行回数および内容について常務理事会で検討することを提案し、承認されました。これを受けて、広報部及び常務理事会で検討を重ね、以下のような提案をさせて頂くことと致しました。「農工通信の発行は、年2回発行の現状と同等以上の内容および分量を持たせて年1回の発行とし、ホームページの充実も図る。」この提案に至った経緯としては、同窓諸氏の求める記事の充実、インターネットの普及、農工通信制作担当者の負担軽減、同窓会の経費節減、を挙げることができます。ホームページに関して

は自前のサイトをもち、外部委託を含めて迅速な対応を取るよう改善致します。農工通信に関しては、カラー化、記事内容の見直しとホームページとのリンクなどによる情報の充実を図ります。最後に経費に関してはこれらの努力により、現在農工通信にかけている年間900万円の経費の大幅な削減を図ります。

以上の検討結果から前述のような提案を総会の席で行うことと致しました。会員皆様のご理解と一層のご支援をお願い致します。

(理事長 松岡正邦)

東京農工大学準硬式野球部 創立50周年記念行事OB会開催

7月30日、本学農学部グラウンドにおいて、野球部50歳の誕生日を祝うため、全国からOBの方達が参集し、汗と泥にまみれながら白球を追いました。

懐かしい級友との意気の合ったバッテリー、シャープなバッティング、ぎこちない身のこなしも、何時の間にか、球に乗り移っていきます。

この50年の間に、悲しく、無念なことに、かけがえのない先輩、同僚の友人が物故されています。出席者一同が黙祷し、亡き人への鎮魂を捧げ、再会できた幸せと喜びを深く噛み締めました。

我が野球部が野球部の伝統としている闊達なス



ピリットを持って限りない活躍を願うと共に、何時までも元気で野球ができることを互いに誓い合いました。

宮城 清(製糸 S33)

「小金井キャンパス120年史」の頒布

「小金井キャンパス120年史」について、まだ余分がありますのでお申出ください。

- ・上製本 A4版 243頁 約1kg 送料600円
- ・CD 最新版 OS(Windows, Mac) 送料250円
- ・上記2点合せた送料 600円

ご希望の品名とその送料分の定額小為替と送付先住所、氏名、電話番号を明記した申込書を同封して下さい。(切手、現金等は受け取れません)。締切りは平成18年2月末日です。

問合せ先：東京農工大学小金井地区総務チーム

(詳細は前号参照)

[史料編纂小委員会 澤田孚夫]

不要となった旧版の 同窓会会員名簿の処理について

平成17年版同窓会会員名簿をお送りした際、個人情報保護法の施行に伴い、名簿の扱いについてお願いをいたしました。

皆様の責任で、名簿の管理をして頂くのが原則ですが、不要となった旧版の名簿の処理についてご希望があれば同窓会にて処理いたします。

平成13年版の名簿に限定しますが、同窓会で、処理しますのでご希望の方は事務局までお送り下さい(送料自己負担)。

平成17年版同窓会会員名簿発行

この2年間に亘る準備期間を経て平成17年版会員名簿が完成いたしました。

この間、各支部、各部会の皆さんや同窓会関係者には大変ご協力を頂きました。改めて厚くお礼申し上げます。平成13年版発行以来、本学は大学院大学となり、法人化に伴う組織の改変による本学の発展拡充に伴い、同窓会員も約5千名の増加となり、正会員・準会員・その他を含め4万9千名を収録することになりました。会員各位の個人情報につきましては、前号(75号)でご案内したように、名簿への掲載を希望されない方は、お申し出によって掲載しない等個人情報の保護に対して、慎重な取扱いに留意いたしました。お気づきの点がありましたら、ご一報下さい。

次の方々には、無償でお送りしています。

(1) 終身会員(終身会費3万円を納入の会員)

(2) 10年分前納会員

(3) 年会費として、平成13年度以降少なくとも3ヶ年度分合計4.5千円以上を納入頂いた会員

会費未納の方は、同封の振込票(手数料同窓会負担)にて納入して頂ければ名簿をお送りします。

また不明者の方々の消息がおわかりの場合には、お手数ながら、同窓会事務局までご連絡頂きたくお願い致します。

名簿記載についてのお詫びとお知らせ

農芸化学科昭和30年卒の田中文隆氏について、誤って、物故者として掲載しまい、誠に申し訳なくお詫び申し上げます。

以下のように訂正させていただきます。

氏名	住所	電話番号
田中文隆	平塚市出縄150-2	0463-34-0816

慶 弔

慶 事 お祝い申し上げます

平成17年春の叙勲

竹下 悦男(農 S34)	旭日小綬章
熊谷千栄子(農化 S36)	紫綬褒章綬章
真木 太一(農 S41)	紫綬褒章綬章

平成17年秋の叙勲

川又 慎(名誉教授)	瑞宝中綬章
伴 菊夫(織工 S34)	瑞宝中綬章

当 選 おめでとうございます

西川 公也(農工 S40)	衆議院議員
林田 彪林 S42)	衆議院議員

弔 事 ご冥福をお祈りいたします

真家 耕三(農 S7)	茨城県支部長
戸塚 宏(農 S16)	静岡県支部長
澤渡 弘幸(林 S33)	

前林産・生物資源工学会副会長

編 集 後 記

11/11~13の学園祭では法人化後はじめて「東京農工大学科学技術展2005」が開催されました。また同時に受験生向けにオープンキャンパスを開催し、本学を広くアピールする企画がなされています。昨今では、産学官連携による講演会や展示会、受験生のための1日体験研究やオープンキャンパス、マスコミ向けに行われる学長による定例記者会見など、本学を外から触れて頂く機会が多くなりました。工学部生協には一躍有名人が現れました。

とはいえ、キャンパスの一部や桜の木など昔と変わらない側面と、一方で新しい発見が盛り沢山の側面と併せ持った訪れてみないとわからないことが多い、面白い状況だと思います。今年度から「キャンパスツアー」というものを開催しています。同窓会員のみならず、お誘い合わせの上、是非久しぶりに本学を訪れては如何でしょうか、お誘い申し上げます。(吉田秀久 記)

事 務 局 だ よ り

▼お詫びとお知らせ

前号(75号)に、掲載いたしました平成17年春叙勲されました岡田幸助様の同窓会役職が徳島県支部長とすべきを、香川県支部長と誤った記載になっておりました。お詫びと訂正を申し上げます。

▼同窓会事務局、年末・年始休業のお知らせ

本年の年末・年始休業は、平成17年12月26日～平成18年1月6日とさせていただきますご案内申し上げます。

農工通信 第76号

平成17年(2005年)12月1日
 発行所 東京農工大学同窓会
 連絡先 〒183-8538東京都府中市晴見町3-8-1
 東京農工大学同窓会事務局
 TEL 04ㄨ 364 ㄨ328
 FAX 04ㄨ 335 ㄨ500
 e-mail: dosokai@cc.tuat.ac.jp
 http://www.tuat.ac.jp/~dousou/
 振替口座 00120-9-93147番(加入者負担)
 加入者名 東京農工大学同窓会